

第35回生 思考廻廊 作成意図

附設を、35回生を表わす共通の言葉とはなんだろうか。考えれば考えるほど、むしろ、ひとりひとりの表情、声、身振りの豊かさ、思考と行動の自由こそ思い出されて、ひと言では括りがたい我々の高校時代を実感する。

おそらくは、「附設」とは、ひとつの様式だったのではないか。中味がどう異なろうとも、我々ひとりひとりの個別を受け入れる器。

そんな「附設様式」のしなやかさを象徴するかたちとして、我々は古碑文風の意匠を思考廻廊のために提案した。

協力してくれたのはデザイナーの大西正一氏。18世紀の装飾文様をアレンジし、ローマ数字はトラヤヌス帝の凱旋門の銘文に依拠。

附設という学校は、卒業生の進路等を見ても実学志向だとは思いますが、ふりかえってみれば、人文学（ヒューマニズム）への共感がここかしこにあったような気もする。そんな我々の気持ちを、大西氏は気品ある様式にまとめあげてくれた。

2013年4月吉日

久留米大学附設高等学校 第35回生
思考廻廊作成係
金井 直、服部 剛、高尾野 健